



2019年12月期 本決算説明資料

2020年2月12日

株式会社ツバキ・ナカシマ

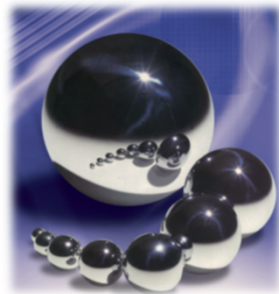
(東証一部 6 4 6 4)



目次

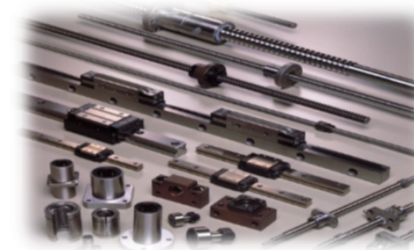
1. 2019年12月期実績 P 2
2. 2020年12月期業績見通し P11

「一球一心」



一つの球に一つの誠心、愛情をこめて鋼球を作り上げること。

「一精一誠」



誠は真心であり、精は精密・精神を意味する。仕事に真心を打ち込んで、魂のこもった精密で優れた製品を作り上げること。



1. 2019年12月期実績

業績トピックス



マクロ経済の悪化が継続する中、マクロ影響に沿った売上となった

売上面

- マクロ経済悪化の影響により、売上収益は646億円（為替影響を除き、前期比10.6%減）となった
- 2019年第4四半期のアジア市場及びセラミック販売は前四半期を上回った

利益面

営業利益は81億円（為替影響を除き、前期比15.4%減）となった

期末配当

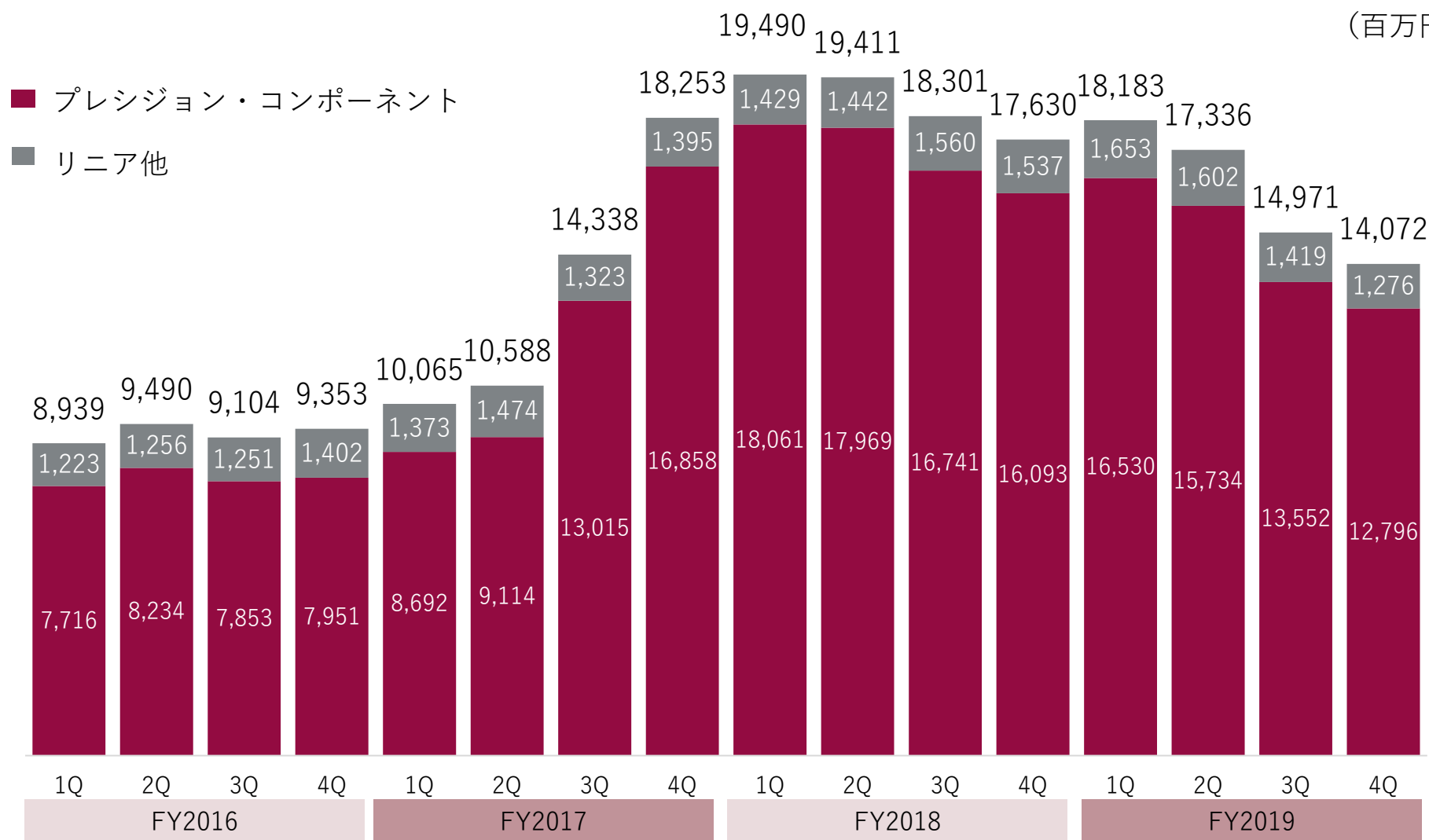
キャッシュマネージメントは堅調であり、年間配当81円/株（期末配当41円/株）を維持する



四半期 連結売上収益推移

経済環境は引き続き悪化したため、売上が減少した

(百万円)



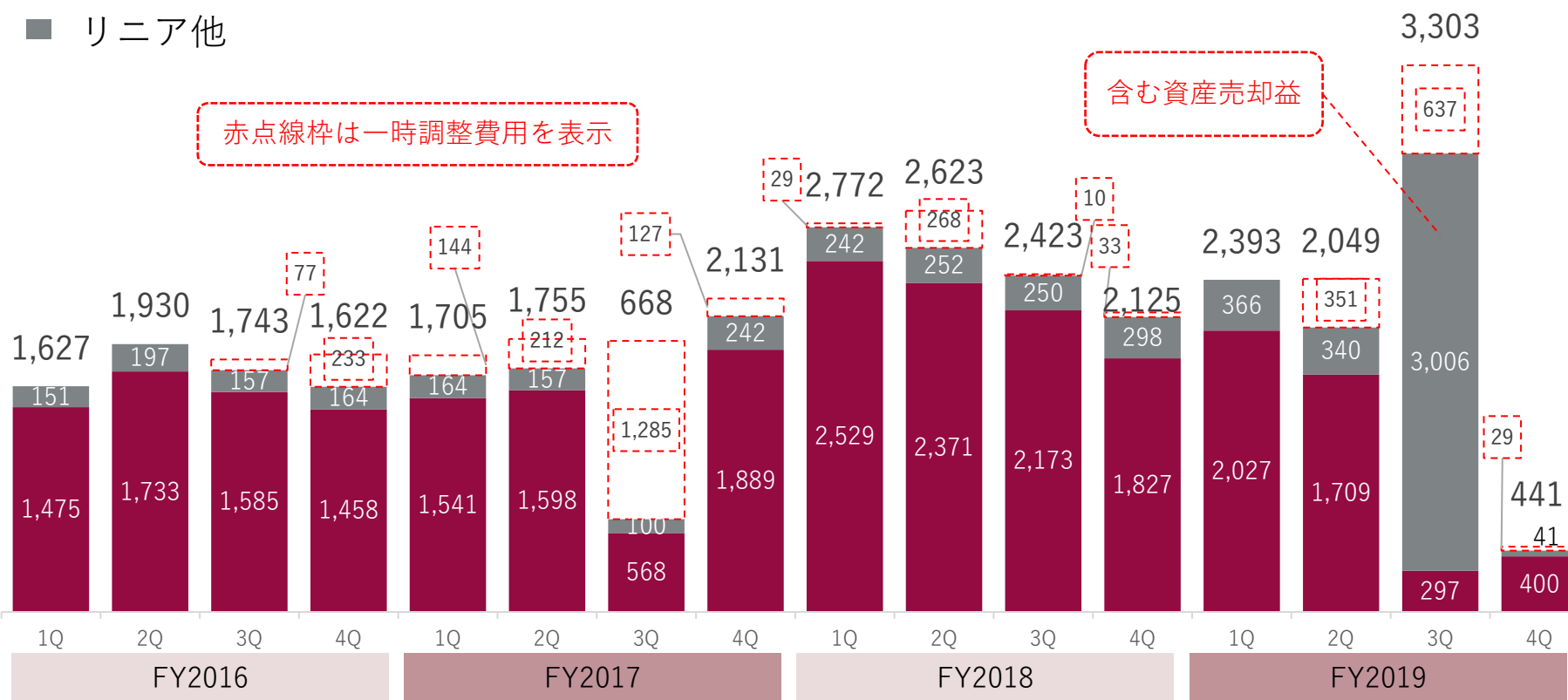


四半期 連結営業利益推移

四半期営業利益は販売縮小に伴い減少した

(百万円)

- プレシジョン・コンポーネント
- リニア他



※一時費用：（2019年）ローラー事業でのリストラ費用、（2018年）外部調査員会関連費用等

FY2019 連結業績

前期比



為替影響を除いた売上収益は前期比10.6%減、営業利益は15.4%減となった

(百万円)

	FY2018	FY2019			
	実績	実績	為替影響	増減額 (※1)	増減比 (※1)
売上	74,832	64,563	▲2,368	▲7,901	▲10.6%
営業利益	9,942	8,186	▲221	▲1,535	▲15.4%
対売上(%)	13.3%	12.7%	—	—	—
EBITDA	13,221	11,538	▲360	▲1,323	▲10.0%
税前利益	8,824	7,214	▲220	▲1,390	▲15.8%
当期利益	6,819	4,891	▲179	▲1,749	▲25.6%

(※1) “増減額”及び“増減比”は為替影響を除いております。

FY2019 セグメント・地域別売上

前期比



アジア市場では底入れ感が出てきた

(百万円)

	FY2018	FY2019			
	実績	実績	為替影響	増減額 (※1)	増減比 (※1)
グループ連結	74,832	64,563	▲2,368	▲7,901	▲10.6%
プレシジョン・コンポーネントセグメント	68,864	58,615	▲2,338	▲7,911	▲11.5%
日本	13,389	11,049	—	▲2,340	▲17.5%
北米	15,056	13,045	▲165	▲1,846	▲12.3%
欧州	26,790	22,053	▲1,517	▲3,220	▲12.0%
アジア(含む中国)	13,628	12,468	▲656	▲504	▲3.7%
リニア他セグメント	5,968	5,948	▲30	10	0.2%

プレシジョン・コンポーネントセグメント：ボール・ローラー・スタンピング部品等のセグメント

(※1) “増減額”及び“増減比”は為替影響を除いております。

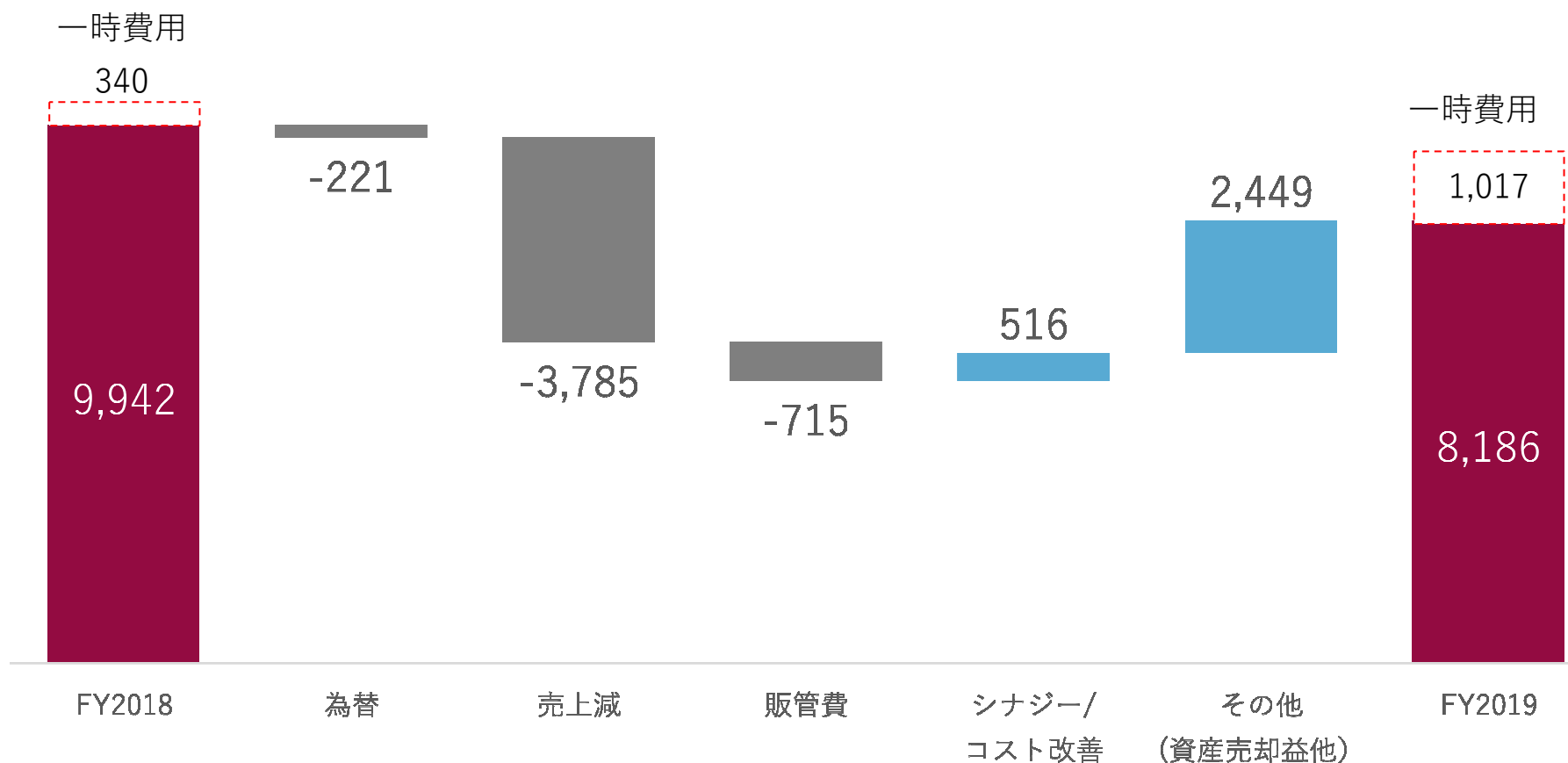
FY2019 営業利益 増減要因

前期比



シナジー効果は計画通り。選択と集中による資産売却益効果を含む

(百万円)



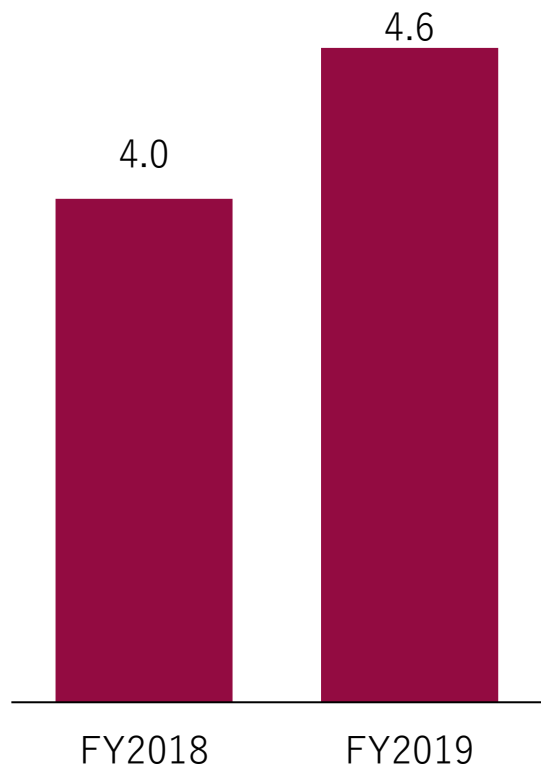
※主な一時費用：（2019年）リストラ関連費用、（2018年）外部調査員会関連費用等



BS/CFにおける業績

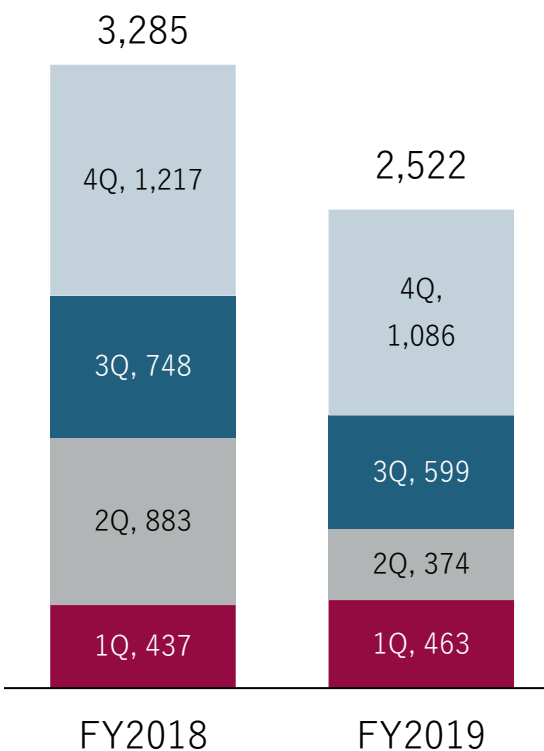
棚卸資産回転月数(月)

売上収益の減少により回転月数が悪化した。改善活動を進める



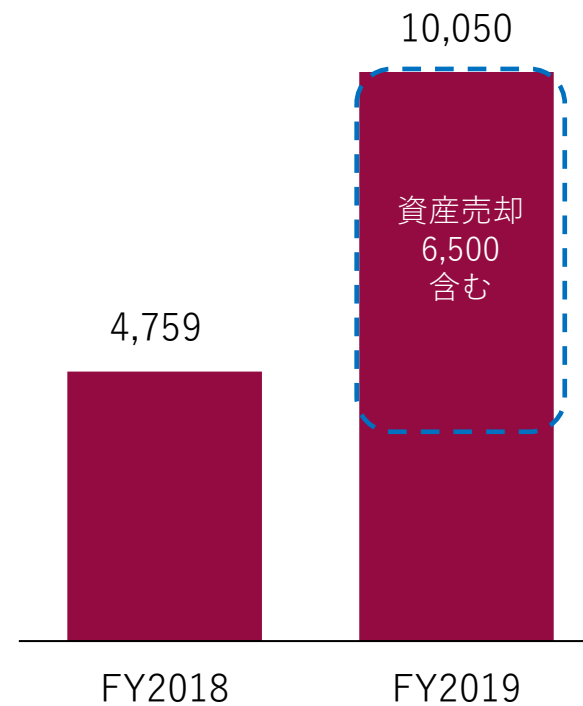
設備投資額(百万円)

IT及び品質・メンテナンス投資を優先的に行った



フリーキャッシュフロー(百万円)

財務力の強化及び将来の成長を念頭にキャッシュマネジメントを強化した



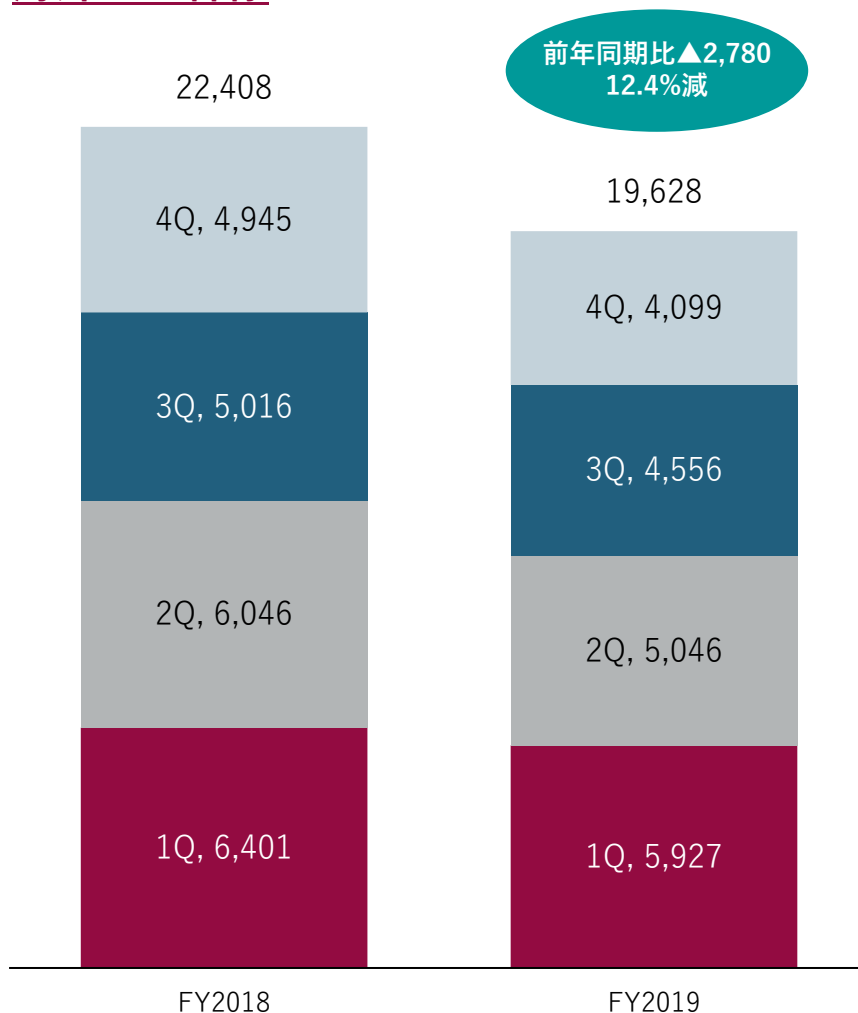


FY2019 販売戦略進捗

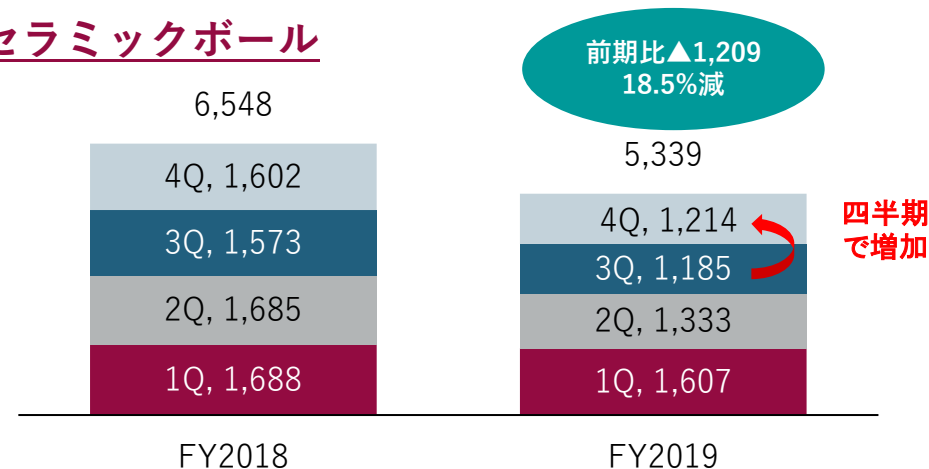
セラミックとアジア市場は四半期で増加傾向となった

(百万円)

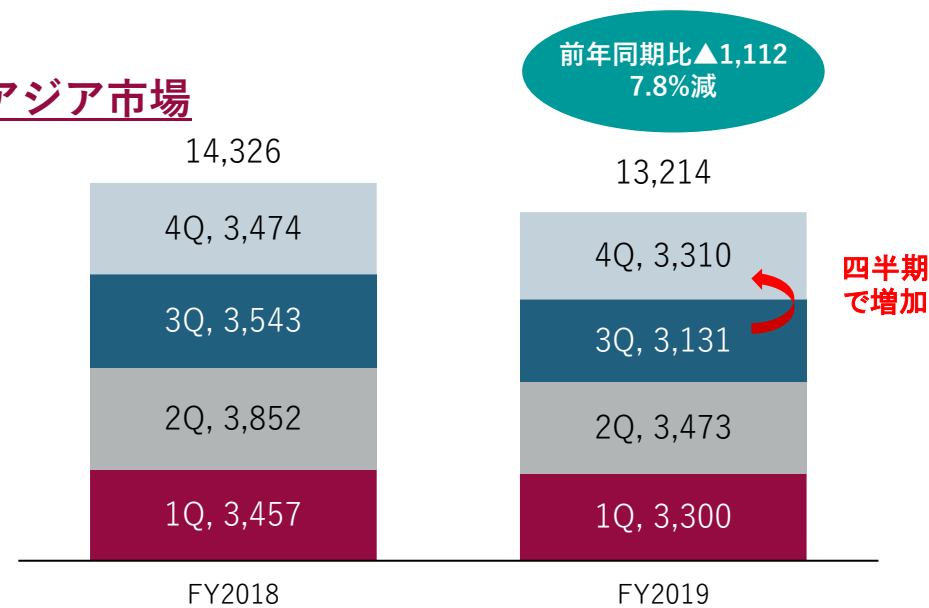
海外のお客様



セラミックボール



アジア市場



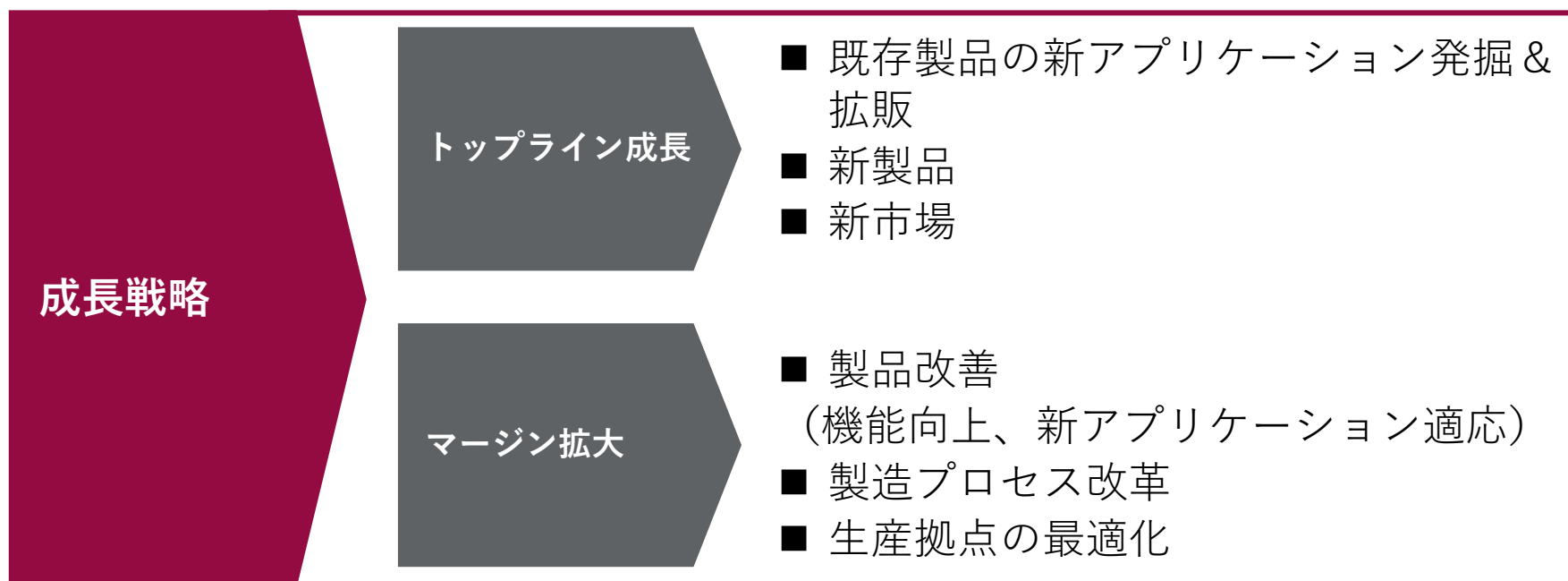


2. 2020年12月期 業績見通し

2020年の経営方針 1/2



【経営の基軸】



✓マクロ経済の悪化環境下においても2020年はトップラインを維持し、成長分野への取り組みを強化し、併せて固定費の適正化に取り組む

✓順調に進んできたコスト改善及びシナジー創出活動を維持しながら、グローバルでの生産拠点の最適化に向けてのアクションを開始する

2020年の経営方針 2/2



売上面

売上収益は、グローバル経済環境を考慮し640億円（対前年0.9%減）とする

利益面

営業利益76億円（対前年7.2%減）とするが、資産売却益による一過性要因を除き、実質的な増益をめざす

株主還元

- ✓ 配当性向50%の年間配当63円とする
- ✓ 上記株主還元政策の一環として、自社株式取得（上限5億円又は30万株）を行う

2020年12月期業績見通し



(百万円)	FY2019		FY2020			
	実績	売上比	見通し	売上比	増減額	増減比
売上収益	64,563	100.0%	64,000	100.0%	▲563	▲0.9%
営業利益	8,186	12.7%	7,600	11.9%	▲586	▲7.2%
EBITDA	11,538	17.9%	11,000	17.2%	▲538	▲4.7%
税引前当期利益	7,214	11.2%	6,900	10.8%	▲314	▲4.4%
当期利益	4,891	7.6%	5,100	8.0%	209	4.3%
基本的1株当たり当期利益(円)	121.7	—	125.9	—	4.1	3.4%
一株当たり配当(円)	81	—	63	—	▲18	▲22.2%

想定為替レートは、1ドル109円、1ユーロ123円、1人民元15.9円
 (実績：2019年期中平均レート 1ドル109.05円、1ユーロ122.07円、1人民元15.78円)



免責事項

本プレゼンテーション資料は、本プレゼンテーション資料の日付現在において有効な経済、規制、市場及びその他の条件に基づいており、当社は本プレゼンテーション資料の情報が正確又は完全であることを保証するものではありません。今後の動向が本プレゼンテーション資料に含まれる情報に影響を与える可能性があります。当社は本プレゼンテーション資料に含まれる情報を更新、改訂又は確認する義務を負いません。本プレゼンテーション資料に含まれる情報は、事前に通知することなく変更されることがあり、当該情報の変更が重大なものとなる可能性もあります。本プレゼンテーション資料及びその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、公開又は利用することはできません。

本プレゼンテーション資料には、1995年米国私的証券訴訟改革法上の将来予想に関する記述を構成する記載（推定値、予想値、目標値及び計画値を含みます）が含まれております。当該将来予想に関する記述は、将来の業績について当社の経営陣が保証していることを示すものではありません。当社は、将来予想に関する記述を特定するために、「目指す」、「予測する」、「確信する」、「継続する」、「試みる」、「見積もる」、「予期する」、「施策」、「意図する」、「可能性がある」、「計画」、「潜在的な」、「蓋然性」、「企画」、「リスク」、「追求する」、「はずである」、「努力する」、「目標とする」、「予定である」等の用語及びこれらに類似する表現を使用する場合があります。また、将来予想に関する記述は、戦略、計画又は意図に関する議論により特定可能な場合もあります。本プレゼンテーション資料に記載されている将来予想に関する記述は、当社が現在入手可能な情報を勘案した上での、当社の現時点における仮定及び判断に基づくものであり、既知及び未知のリスク、不確実性その他の要因を含んでいます。当該リスク、不確実性その他の要因により、当社の実際の業績又は財務状態が、将来予想に関する記述により表示又は示唆されている将来の業績又は財務状態から大きく乖離する可能性があります。

当社以外の会社又は当事者に関連する情報又はそれらにより作成された情報は、一般的に入手可能な情報及び本プレゼンテーション資料で引用されているその他の情報に基づいており、当社は、当該情報の正確性及び適切性を独自に検証しておらず、また、当該情報に関して何らの保証もするものではありません。